

報告事項オ

グローバルリーダーズキャンパスについて

グローバルリーダーズキャンパスについて、別紙のとおり報告します。

平成28年7月13日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

グローバルリーダーズキャンパスについて

平成28年7月13日
高等学校課

世界を視野に入れて活躍する高い意欲と志を持った人材を育成するため、県内の高校生等を対象として、世界トップクラスの米国スタンフォード大学が提供する遠隔講座を活用した英語によるプログラムを実施します。(平成28年度新規事業)

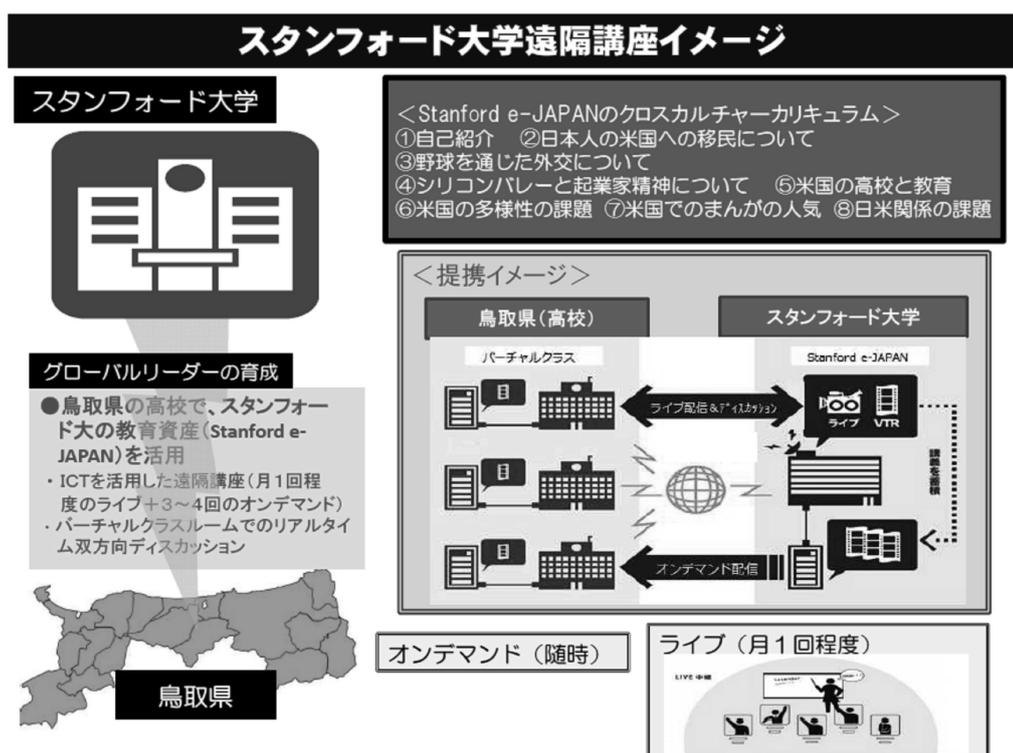
事業開始にあたり、7月18日には同大学のゲリー・ムカイ博士他を招待して、開講行事を開催します。

1 講座の概要

- ・米国スタンフォード大学が日本の高校生向けに提供している通信教育プログラム **Stanford e-Japan** を活用して、本県の高中生がスタンフォード大学の講義を受講
- ・初年度は日本の高校生向けの汎用カリキュラム（日米間の歴史文化的関係がテーマ）を活用（8月～3月まで 月1～2回程度の講座）
- ・今後、鳥取県向けに内容等を調整していく予定
（講座テーマの参考例）
 - ①自己紹介 ②日本人の米国への移民について ③野球を通じた外交について
 - ④シリコンバレーと起業家精神について ⑤米国の高校と教育
 - ⑥米国の多様性の課題 ⑦米国でのまんがの人気 ⑧日米関係の課題

2 講座の効果

- ・汎用プログラムの **Stanford e-Japan** で受講可能な本県の生徒は数名程度だが、鳥取県単独で本事業を実施することにより、30名程度の生徒が受講可能
→ **Stanford e-Japan** に県単位で取り組むのは全国初
- ・学校の枠を越えて集まった生徒同士が切磋琢磨し、刺激し合える。
→将来的には、**Stanford e-Japan** を受講している他県の高校生や、スタンフォード大学を目指す世界中の高校生との意見交換も構想中
- ・ライブ授業を公開することにより、国際的な英語学習に興味を持つ生徒が増えたり、英語教員の指導力の向上につながったりするなど、全県的な英語教育の水準の向上につながる。



3 事業開始までの経緯

平成27年12月、当時楽天アメリカ在籍であった本間氏が知事と面談をされた際、スタンフォード大学が実施する遠隔講座を、鳥取の高校生向けにカスタマイズして受講を薦めてほしい旨強く働きかけられ、その後、本間氏を介してムカイ博士をスタンフォード大学の窓口として折衝を重ね、鳥取県版の遠隔講座実施、7月の開講式開催に至った。

4 開講式等について

- (1) 日時 平成28年7月18日(月) 午前9時30分から正午まで
- (2) 会場 鳥取県教育センター(鳥取市湖山町北5丁目201番地)
- (3) 内容 ①表敬面談(副知事・教育長・教育次長・次長・ムカイ博士・本間氏)
9:30～9:50
記念撮影(受講生徒とともに) 9:50～10:00
- ②開講式
- ・開会 10:00
 - ・出席者紹介 10:00～10:05
 - ・平井知事ビデオメッセージ 10:05～10:10
 - ・教育長あいさつ 10:15～10:20
 - ・ムカイ博士あいさつ 10:20～10:25
 - ・受講生徒決意表明 10:30～10:35
 - ・閉会 10:35
- ③講座オリエンテーション 10:45～11:45
- (4) 出席者 スタンフォード大学関係者等：ムカイ博士、本間氏
県：副知事
県教育委員会：教育長、教育次長、次長、参事監 ほか
講座受講生(県内高等学校等生徒)：28名(県立24名、私立4名)
7月11日現在

ゲリー・ムカイ博士について

スタンフォード国際・文化交流教育プログラムディレクター

Director of Stanford Program on International and Cross-Cultural Education(SPICE)

- ・1977年から3年間、群馬県太田市内の各学校での英語指導を経験
- ・1981年に、スタンフォード大学国際発展教育の修士号を取得
- ・アジア太平洋地域と日米関係に関する著書・論文多数
- ・1997年には、アジアと日米関係に関する教材開発の功労者として、フランクリン・ブキャナン賞を受賞

本間 毅(ほんま たけし)氏について

- ・鳥取東高ー中央大学
- ・元楽天アメリカ事業開発責任者。現在は独立してシリコンバレーで起業。
- ・昨年12月11日知事と面談。スタンフォード大学が世界で進めようとしている優秀な高校生に対する遠隔授業等の支援を日本で初めて鳥取県でできなにかという提案レターを持参。